

隠れたる名 城米子城 -その価値と魅力に迫る-

米子城のここがすごい！ -史跡とまちづくり-

中 井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・今、お城が面白い ⇒ 姫路城天守がグランドオープン【2015年3月27日に5年半におよんだ修理が完成】
- ・松江城天守 ⇒ 2015年7月8日の官報告示【国宝五城となる】
- ・城とは ⇒ 軍事的防御施設【普請(土木工事)と作事(建築工事)】
- ・米子城の見方、歩き方 ⇒ 縄張り(普請)に着目【城の持つ本来の魅力】

◆米子城の構造

- ・米子城は平山城か山城か？⇒ 山上部の詰城(防御空間)と、山麓の御殿(居住空間)【山城】
- ・米子城の縄張り ⇒ 測量と絵図から明らかとなった全貌【山上(本丸)と山下(二の丸、三の丸)から構成される二元的構造】
- ・正面(大手)はどこか
 - ①大手(表御門)→櫓形(中御門)→二の丸→冠木御門(本丸裏御門)→本丸【江戸時代の大手か】
 - ②搦手(裏御門)→裏中御門→二の丸→冠木御門(本丸裏御門)→本丸【吉川・中村・加藤時代の大手か】
- 城下の町割りの方位のズレ ⇒ 吉川氏の城下町と、中村・加藤の城下町
- ③深浦御門→(御天守坂)→表御門→本丸【海城としての大手】
- ・櫓形虎口 ⇒ 櫓形前面が開く構造(高麗門を構えない)【豊臣大坂城や肥前名護屋城の櫓形構造】
- ※関ヶ原合戦後の築城にも採用される【福岡城(黒田氏)、宇和島城(伊達氏)】
- 櫓形(中御門)の違和感 ⇒ 当初の縄張りではない(松江城の大手馬溜)
- ・米子城最大の特徴 ⇒ 天守と四重櫓という2基の天守【四重櫓が先行して造営されたと伝えるが、城下からの眺望と本丸の形態より天守台が先行していたことを示している】
- ・「米子御城明細図(元文4年：1739)」を読む ⇒ 建物の描かれていない曲輪の存在(水の手御門下の曲輪・飯山の曲輪)【近世にはすでに用いられていない曲輪：城割】
- 内堀の中海開口部 ⇒ 船溜【敵の侵入を阻む石塁堤防】
- ・本丸遠見御櫓から内膳丸に延びる石塁 ⇒ 登り石垣【文禄・慶長役に朝鮮半島南岸に築かれた秀吉軍の城(倭城)に用いられた石垣】
- ※倭城の影響 ⇒ 伊予松山城(加藤嘉明)、洲本城(脇坂安治)、但馬竹田城(赤松広秀)、彦根城

- ・飯山の存在 ⇒ 米子城の防衛上取り込まなければならない山【内堀の内側に取り込む】

◆米子城の見どころ —ここがすごい—

- ・天守台 ⇒ 隅部にのみ矢穴痕の残る石材を使用【築石は自然石もしくは粗割石を使用】
- ※八幡山城(天正～文禄年間豊臣秀次、京極高次)、大和郡山城(天正～文禄年間豊臣秀長、増田長盛)の天守台石垣と酷似 ⇒ 構築年代の特徴【吉川広家段階か】
萩城天守台や松江城天守台に比べると古式の様相を呈している
- ・石垣 ⇒ 様々な時代の石垣
 - ①天正 19 年の石垣(吉川広家) ⇒ 飯山の石垣、八幡台の石垣【野面積み】
 - ②慶長 5 年直前の石垣(吉川広家) ⇒ 天守台、内膳丸、水の手御門下の曲輪(城割の痕跡)、登り石垣【矢穴】
 ※関ヶ原直前の毛利領東端諸城の改修 ⇒ 国境警備の強化【月山富田城、米子城、鬼身城(備中)】
 ※吉川氏自身による城割の可能性
 - ③関ヶ原合戦後から元和元年頃の石垣(中村一忠、加藤貞泰) ⇒ 樹形、二の丸石垣、三の丸石垣【打込接】
 - ④寛永の石垣(池田光政[由之、由成])
 - ⑤江戸期の石垣(荒尾氏)
 - ⑥幕末(嘉永 5 年 : 1852) ⇒ 四重櫓台【切石による谷積み】
- ・岩盤を利用した石垣 ⇒ 矢穴の残る岩盤【石垣石材は湊山自体からも採石していた】

◆おわりに —これからの米子城跡を活かしたまちづくり—

- ・米子城のすごさ ⇒ 海を望む「天空の城」⇒ そのすごさを阻むものが繁茂する樹木【明治維新以後一度も散髪されなかった城山】(天守付近については昭和 50 年代に一部伐採) ぜひとも、樹木の伐採を ⇒ 各地で実施される樹木整備【彦根城、月山富田城】
城下から見上げた壮大さと、城跡から望んだ中海の景観
- ・二の丸の高石垣と山上の石垣が同時に望める ⇒ 高石垣の草木(蔦や雑草)の除去【山上部のみが米子城ではない】
- ・今後の整備活用に大いに期待 ⇒ 市民に愛される城跡に【城跡のあるまちの誇り！】

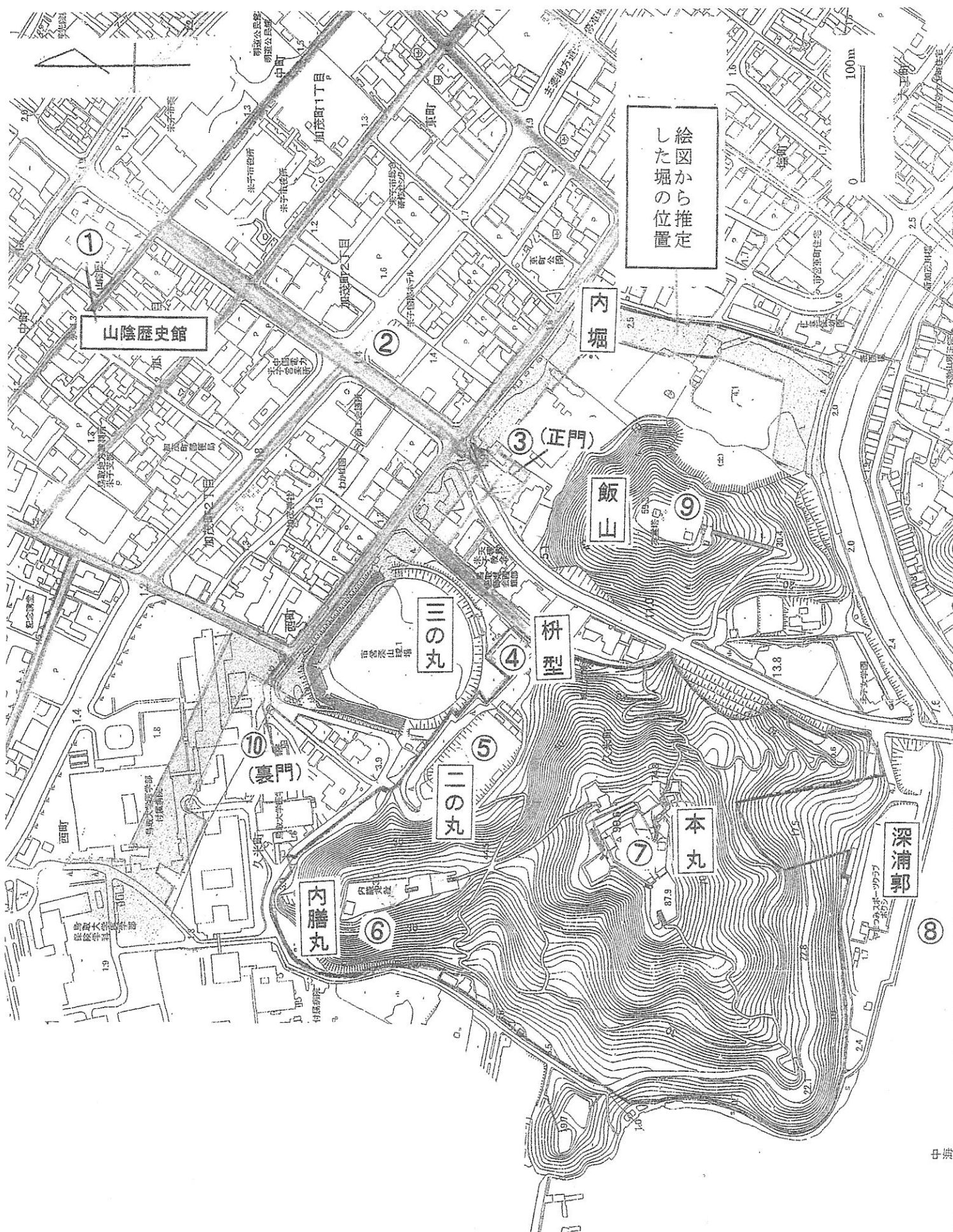
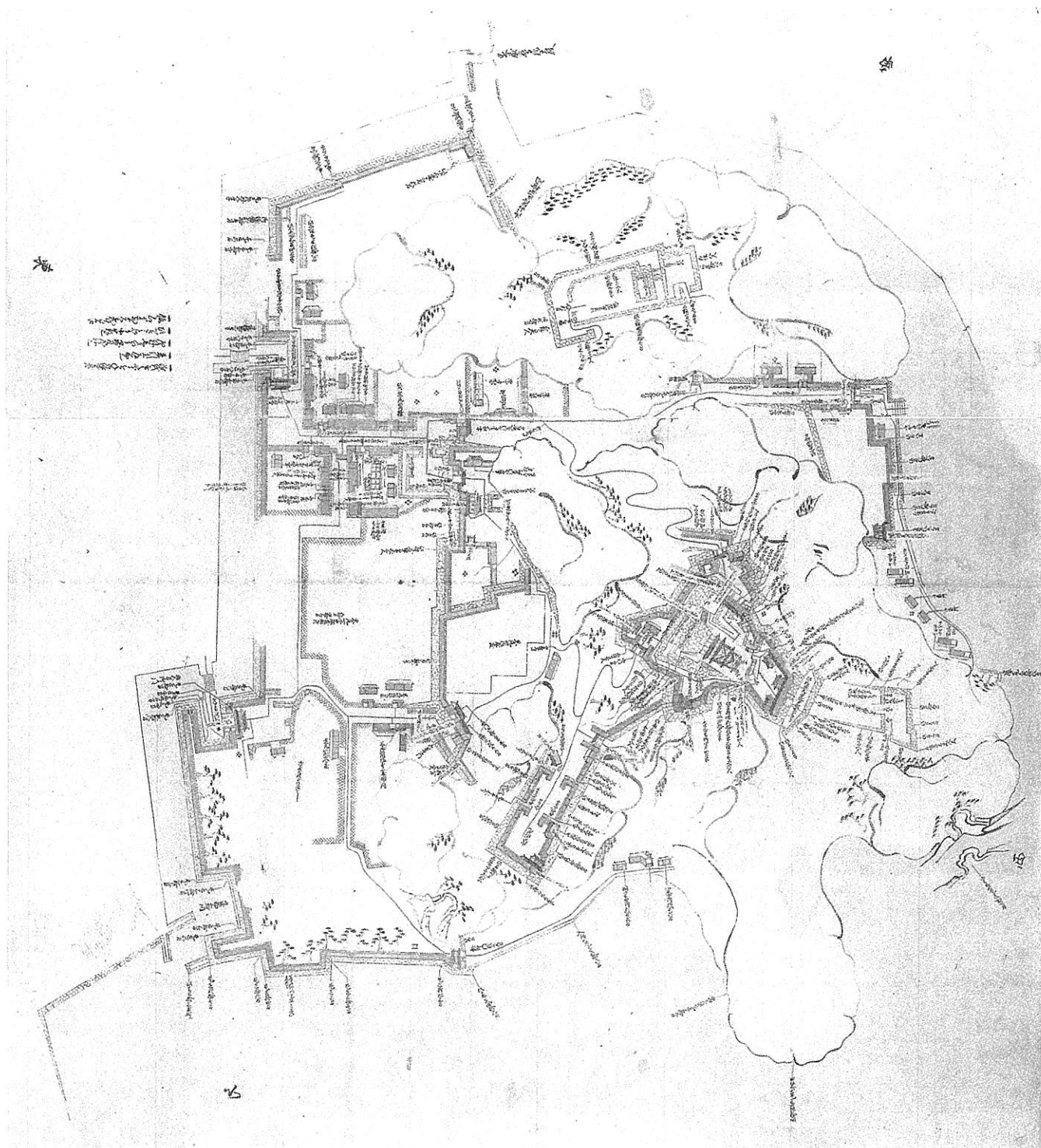


図3 米子城の郭の配置

图 4 米子御城明細図(元文 4 年・1739)



米子の町の構造

山陰歴史館館長 国田俊雄

城を中心として内堀と外堀の間を「ちょう」と呼び武士の居住地である。五十人ちょう、堀端ちょう、片原ちょうなど。外堀の外側が「まち」で、町人の町である。「ちょう」と「まち」は7つの橋で結ばれている。図で示したように、城を中心として、武士、町人、農民を同心的に支配した構造である（図1）。

町筋は城を横手に見て、直線的に東から法勝寺町、紺屋町、四日市町、東西倉吉町、尾高町、岩倉町と旧伯耆の城下町からの移住者の町名がつけられている。それにたいし岩倉町角西から50メートル北に曲がって（中の棚まがり）、そこから立町、灘町がある。立町は「中心の町」の意味で、それにクロスするまちを横町と呼ぶ。灘町は古くは横町と呼ばれていた。このほかに、「かやまち」「大工町」「魚町」「塩町」の名が現灘町の位置に記してある。この立町を中心とするグループは以前からの米子の町で、法勝寺町などの吉川氏や中村氏が勧請した町は新しい町だと思われる。古い中世的な町と新しい近世的な町をつないでいるのが「中の棚まがり」である（図2）。

米子の町の特徴

- 1 武士の町ではない 米子組士80人 荒尾家臣63人 鉄砲足軽57人（表1）
- 2 米子は商業の町（図3）
- 3 農地が多い 半商半農（表2）

・伯耆民談記（1742年 松岡布政著）

会見郡古城の部

湊山城

昔はこの山に城なくして飯の山にあり。古戦書に言う米子城は多くは飯山城のことなり。当城は吉川元春、天正年中に雲州富田を本城として、築きたまえるところの城なりという。

・山県覚書（山県九左衛門、吉川家臣）

伯耆の内米子と申しところ御城御普請思し召され、立山の名を御改め大山大坊円智法印御籤をもって湊山と申し候。米子と申すところ昔より町づくりにぎにぎしき所の由、通り筋十四町これあり、通り筋の外にも家数だいぶこれありの由に候。侍屋敷割の時、九左衛門門屋敷御見立て城通り山屋敷これをくださり、御城へ裏道おんつかわれ候。両面出入り仕り候。時に御家中侍末々、町人百姓いたるまで来用多かるべく候。

圖 1

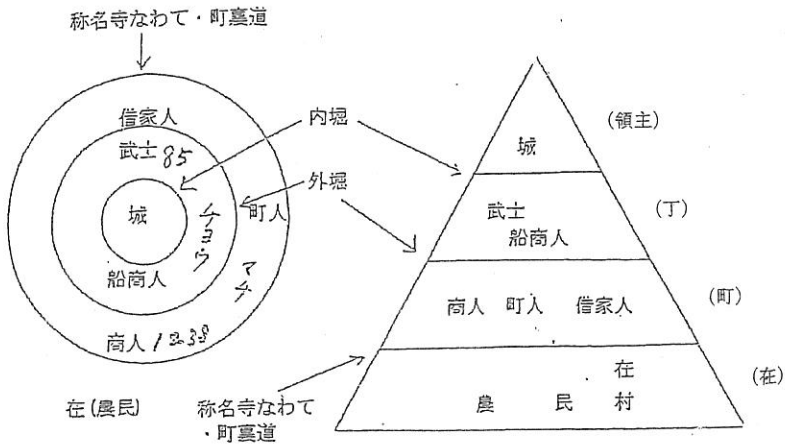


表 1

明和4年 侍屋敷、町屋敷数

	侍屋敷	町屋敷	侍屋敷比
鳥 取	25000	10288	71
松 江	16484	13903	54.4
米 子	85	1238	6.4

图 2

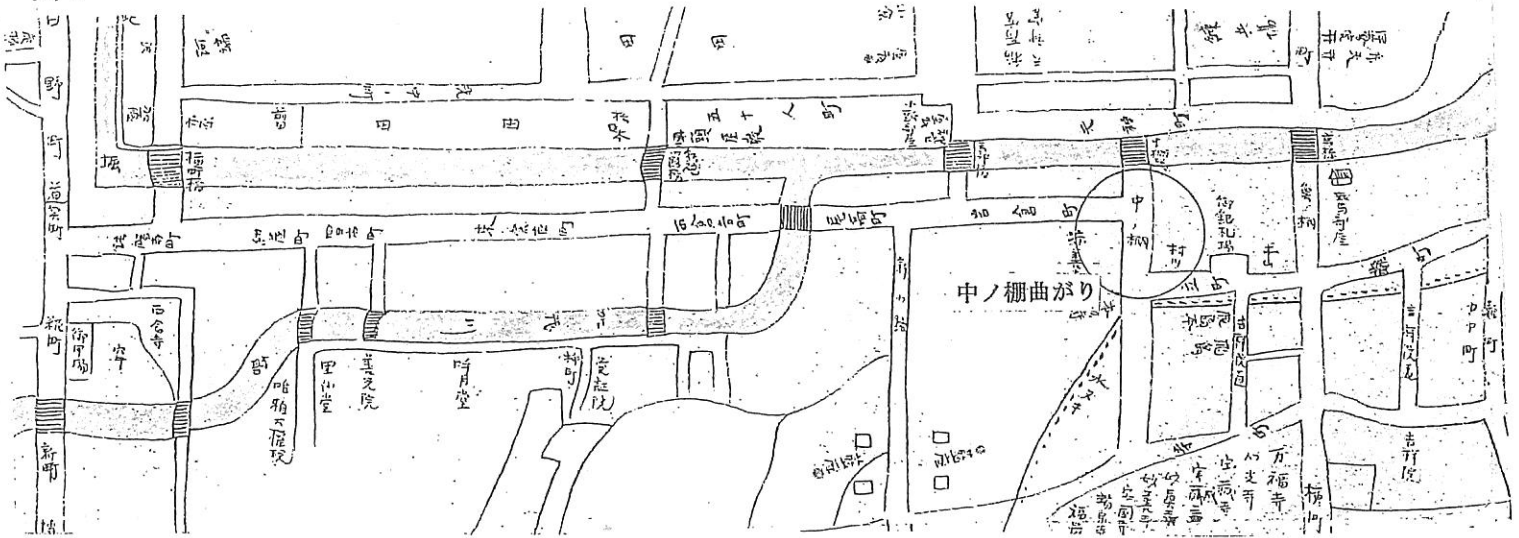
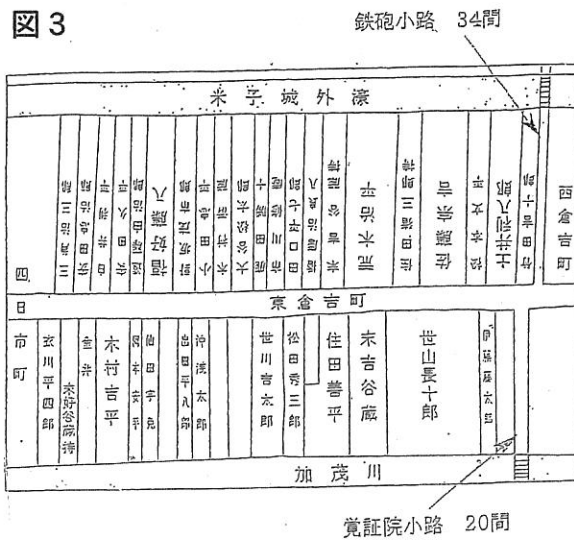


表 2

元祿一四年	一三二七石	六〇九石	三六三石
拜領高	一三六二・三石	六〇九石	三三〇石
	米子	鳥取	倉吉

米子・鳥取・倉吉の物成表（收穫高）

图 3



東倉吉町の町屋図

・ 町録

法勝寺町	唐津物、古物商
紺屋町	野道具、傘雨具
四日市町	鍛冶屋
東倉吉町	呉服小間物、宿屋、置屋
西倉吉町	呉服小間物、宿屋、畳表 縁取ゴザ類
尾高町	呉服小間物、宿屋、畳表 ゴザ類
岩倉町	昆布、乾物
立町	傘、綿
灘町	海産物、魚屋、綿問屋、舟問屋、野良蓑

米子城・米子町関連年表

米子城

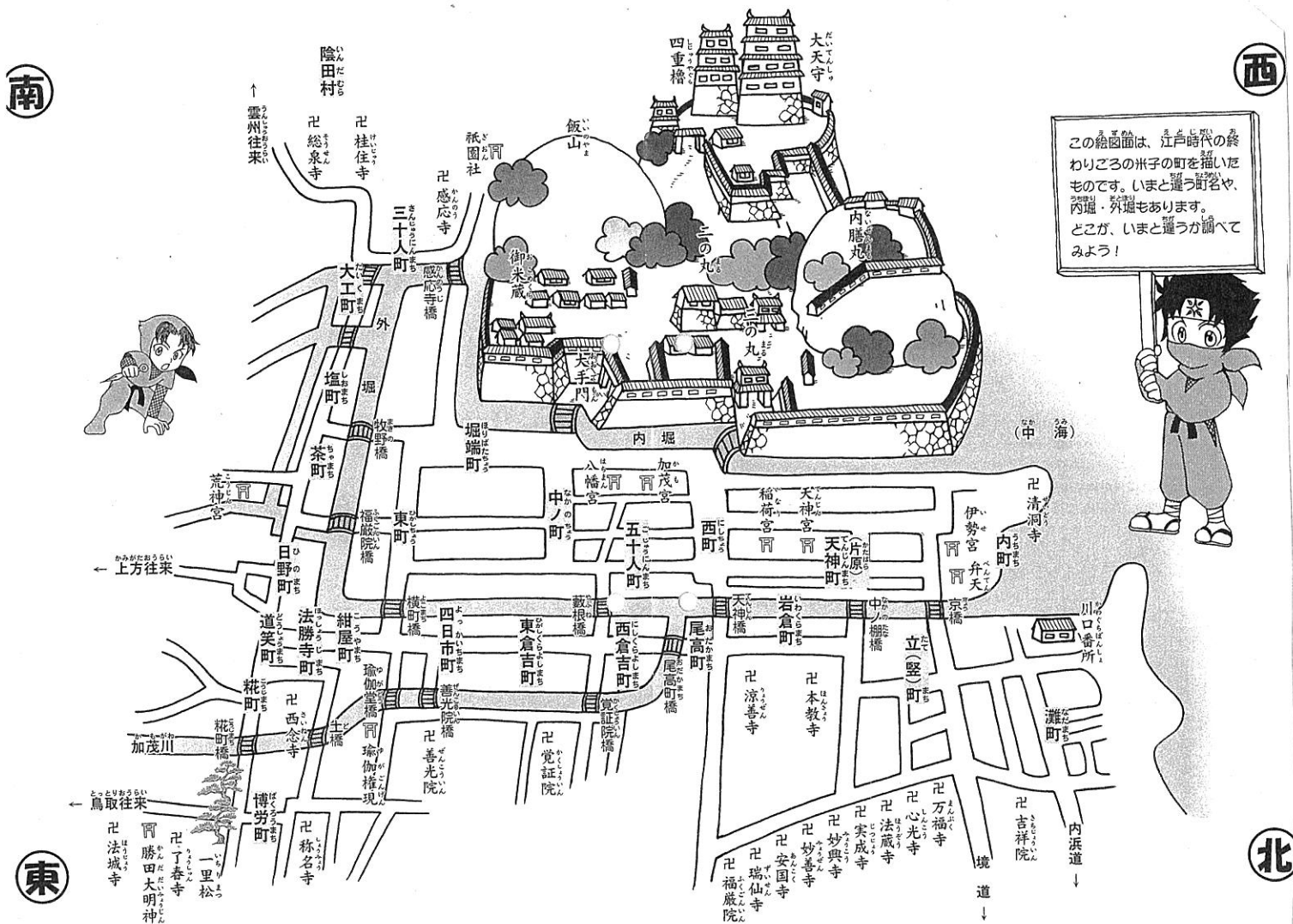
- 1467 応仁の乱 米子飯山に山名宗幸が砦を築く
- 1470 山名軍（羽衣石、小鴨、南条）尼子清貞軍に境松で破れ米子城に逃げ込む
(出雲私記)
- 1524 5月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高、天満、不動嶽の城を攻め落とす（大永の五月崩れ）
- 1562～1566 尼子毛利の抗争 尼子氏没落
- 1571 山中鹿之助らによる尼子氏再興運動 羽倉孫兵衛500人で米子町を焼く
城番 福頼元秀は防ぎきれず、城に逃げこむ
- 1578 尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ この頃の米子城番 古曳吉種
- 1580～1582 織田対毛利の合戦 本能寺の変
- 1585 秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利氏の領地となる
- 1591 吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など12万石を認知され、富田城に入るが、居城を米子に変え、山県九左衛門を奉行として築城開始
お立山を「湊山」と改名
- 1592～1958 文禄慶長の役（朝鮮出兵） 1592 古曳吉種朝鮮で討ち死
- 1600 関ヶ原合戦 吉川広家西軍として出陣 築城奉行は祖式九右衛門（長吉）
吉川広家岩国（3万石）に転封 代わりに駿府より中村一忠（18万石）入国
この頃城は7割方完成（好問随筆 内堀、四重櫓、枡形、侍屋敷）
- 1603 中村一忠、家老の横田内膳を暗殺 横田主馬らと一忠との戦い（米子騒動）
- 1609 中村一忠急死 中村家断絶 岐阜黒野より加藤貞泰入国（6万石）
- 1631 池田光仲因伯支配（32万石）家老荒尾成利が米子城預かりとなる
- 1852 四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理
- 1868 明治維新 三の丸米倉は松江監獄の牢屋となる
- 1873 山本新吉37円で米子城天守を取り壊す

米子町

- 1467年応仁の乱の時飯山に砦が築かれる以前に漁師町あるいは港町として成立していた
- 1524（大永4年）5月尼子経久による伯耆侵略 焼き討ち、略奪にあう 大永の五月崩れ
- 1571（元龜2年）尼子方羽倉孫兵衛による米子町焼き討ち

- 1591 吉川広家伯耆西3郡の城下町の住民を米子に勧誘する
法勝寺 四日市（戸上城）尾高 日野（黒坂）
- 1600 吉川広家関ヶ原出陣による米子城完成のため住民6割動員
- 1603 中村一忠入国 家老横田内膳の経済政策 倉吉、岩倉（関金）の住民を米子に勧誘し、米子町の都市計画を立案（総がまえ型→内町外町型）
外堀と加茂川にはさまれた中央に中筋を通し、短冊形の町屋を配置する。米子港についた船から舁で荷を運び入れる。外堀にかけた七つの橋から天守が見えるようにする。（ピスタ）
米子港の寄港自由、検地、木材などを米子を介するようにする。

国田敏雄氏作成



米子市立図書館 2005「ふるさと米子 探検隊」

第2号 米子城 入門の巻 より転載